









プログラム名	いろ色発見隊～季節のカメラマン～	
実施団体	○団体名：特定非営利活動法人 冒険あそび場—せんだい・みやぎネットワーク ○代表者名：佐藤 慎也 ○電話：022-264-0667 ○FAX：022-264-0667 ○住所：仙台市青葉区国分町 3-8-17 日東ハイツ 405 OE-Mail：jimukyoku@bouken-asobiba-net.com	
対象者	乳児（保護者同伴）、幼児、小学生、中学生、高校生、成人、高齢者	
対象人数	10～25名（プログラム・準備物・対象者によっては、それ以上でもそれ以下でも可能）	
学習場所	屋外（プログラムの設定によっては、屋内も可能）	
学習時間	30～90分（人数・プログラム内容により時間の変更可能）	
実施時期	通年	
準備物品・費用等 （講師謝金を除く）	実施団体側	インスタントプリントカメラ、またはデジカメ、写真用プリンター
	利用者側	屋外で活動できる服装（帽子、靴など） （活動場所・時間によって）水筒、お弁当、学習場所までの交通費、 傷害保険料 筆記用具、必要に応じてマップ作り用の用紙（模造紙など）
事前打ち合わせ	実施1か月前まで	
効果的な学習段階	幼児の目線で、自然の移り変わりや自然の不思議を発見する。 自然を通して地域に親しむ。	

学習概要	1. 学習のねらい	
	○子どもが森や公園の散歩を通して季節の移り変わりに気づき、幼児期における子どもの感性を育むことができる。 ○写真や絵・自然素材を使ったクラフトなど、視覚的にわかりやすく、文字が読めない幼児でも体験を通して季節の移り変わりを理解することができる。（※特別支援が必要な子どもも参加が可能） ○親子や幼稚園・保育所・学校などの団体（集団）でも容易に取り組むことができる。	
	2. 学習する内容	3. 学習のポイント
	（1）はじまり ・お話（絵本やリズムあそび等）	・心を落ち着かせて、散策を楽しむ 雰囲気づくりを行う
	  	
	（2）発見隊出発   	・森や公園を歩きながら、発見したもの・気になるもの、季節を感じる色や生き物など、子どもの目線で写真に撮っていく。採った自然物を持ち帰っても可。

学習概要	（3）自然のたからものづくり （マップづくりや自然物のクラフト）		・他の人は何を、どんな場所で発見したか、同様な（同類な）写真を見て（比べて）、自分と他者を意識させる ・何を発見したか、写真を選んだ理由、他の人と同類の写真などを比べたりすることで、自分の見つけた色が他の人も興味・関心がある季節色の基であることを気づかせる
	（4）ふりかえり 今日の発見したものをもう一度、子どもと確認をする。		・散歩をして、そのまま終わるのではなく、創作やふりかえりを行うことにより、子どもの印象がより鮮明になる。 ・年齢が高い子どもや大人には、自然がもたらす日本の重ね色など、暮らしの中に自然の色が使われていることについて教え、伝えていく。色や形から、体感することによって季節の変化を感じることを知らせる。
	4. 学習のまとめ		
	○今日、発見したもので多かった色や生物などを確認することにより、季節の変化を子どもなりに気づくことができる。また、発見したものの色の変化を考えさせることで、次回への関心と期待を持たせることができる。 ○季節の色の変化を目で見て体感することにより、色による暖かさや寒さも感じることができる。そのことから自然の営み（自然環境）についても意識づけをすることができる。 ○保育環境の領域を意識して行うことができる。（年長児においては、森や山の自然だけではなく、変化する町や生活の様子を知ることができる） ○発見マップづくりを行うことにより、地域の環境に興味関心を持たせ、次への広がりや繋がりになる。		
追加・変更できる学習内容	○季節の色と変化を知るだけでなく、自然物を利用して製作物を作ることができる。それは共同および個人の表現につなげることができる。小学生以上は、図工や生活科などに活動の範囲を広げられる。 ○写真のマップをグループだけではなく、個人の発見マップに展開することができる。 ○雨天時でも、雨具を使用し野外で実施することができる。 ○場所を変更する場合、屋内での色探しなどを行うこともできる。		
事前・事後学習についての助言	○子どもは写真を撮ることや発見することが大好きです。 身の回りに多くの色があり、季節によって色が変わること事後の学習で繰り返し行うことで、さらに季節の変化をそれぞれに見くらべて感じるすることができる。 ○写真のマップを個人の発見マップにすることにより、子どもの発達の記録の一部にすることができる。 ○配慮の必要な子ども（色の認識が苦手な子どもなど…）がいる場合は、色探しを特定しない方法を取り入れて行うなど、幅を持たせたプログラムの内容で実施することができる。その場合は、季節の発見写真（形）に置き換えることも可能である。		
雨天時の学習内容	○雨天時でも、雨具を使用して実施可能。 ○場所を変更して、屋内での色さがしなどを行うことができる。 （人・時間・場所等の環境に合わせ、プログラムの変更が可能）		